

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における春日井市全体の結果について

春日井市教育委員会

1 小学校6年生

ア 教科の状況

○状況を見るにあたって

・教科別・区分別に次の3段階で示す。

「たいへんよくできている」：正答率8割以上

「おおむねできている」：正答率5割以上8割未満

「努力を要する状況である」：正答率5割未満

・それぞれの教科で、よくできている内容（○：正答率7割以上）と、努力を要する内容（△：正答率5割未満）の一部を紹介する。

○教科別・区分別状況

| | 主として「知識」に関する問題 | 主として「活用」に関する問題 |
|----|---|---|
| 国語 | おおむねできている<正答率約6割強> | おおむねできている<正答率約6割弱> |
| | ○漢字を正しく読む。 ○具体的な事例を挙げて、説明する文章を書く。 ○作品募集の案内のなかから、必要な情報を読みとる。 △新聞のコラムを読んで、表現の工夫をとらえる。 | ○目的に応じ、中心となる語や文をとらえる。 ○目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる。 △目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く。 △文章と図とを関連づけて、自分の考えを書く。 |
| 算数 | 主として「知識」に関する問題 | 主として「活用」に関する問題 |
| | おおむねできている<正答率約7割弱> ○整数・小数・分数の四則計算をすることができる。 ○式で表現された数量の関係を図と関連づけて理解することができる。 △示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択することができる。 | 努力を要する状況である<正答率約4割5分> ○平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している。 △示された情報から基準量を求める場面をとらえ、比較量と割合から基準量を求めることができる。 △長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる。 |
| 理科 | おおむねできている<正答率約5割強> | |
| | ○水蒸気は、水が気体になったものであることを理解している。 ○打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係づけながら考察して分析できる。 △析出する砂糖の量について分析するために、観察した事実と関係づけながら情報を考察して記述できる。 △顕微鏡の適切な操作方法を身につけている。 | |

イ 学習・生活習慣等の状況

○状況を見るにあたって

- ・学習、生活習慣等の状況調査を「基本的生活習慣」「学校、家庭での居場所」「自己肯定感」「規範意識」「家庭学習」の観点から分析した本市の全体傾向は、国や県と同様の傾向を示している。その中で全体傾向については、肯定的な回答の割合が8割以上見られる内容を紹介する。また「国との比較」では肯定的な回答の割合が高い項目（○：国平均より3ポイント以上高い）、低い項目（△：国平均より3ポイント以上低い）の代表的なものを紹介する。

春日井市全体の傾向

- ・毎日朝食をとる、決まった時間に起床するなど、基本的生活習慣を身につけている。
- ・学校が楽しく、友達の話をよく聞いたり、約束を守ったりしている。
- ・物事を最後まで協力して何かをやり遂げて、うれしいと感じたことがある。
- ・規則を守って生活しており、「人の気持ちが分かる」「人の役に立ちたい」「いじめはいけない」と思っている。
- ・家で学校の宿題をしている。
- ・テレビやインターネットのニュースを見る。

国との比較

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| ○学校に行くのは楽しい。 | △テレビ・DVDの視聴やゲームをする。(時間が長い) |
| ○家の人が授業参観や運動会などの学校行事に来る。 | △家庭学習をする。自分で計画を立てて勉強する。 |
| ○新聞を読んでいる。 | △家で学校の授業の復習をしている。 |

ウ 今後の取組

国 語

- ・実生活で生きて働く国語の能力として、目的に応じて適切に本や文章の一節や文、語句などを引用することができるようになることは極めて大切である。このため、かぎ(「 」)で括ることなど、引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて、児童が自分の思いや考えを書くことなども指導することが必要である。
- ・図表やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらに関連づけて読んだり、自分の考えを書いたりする指導を意図的に行うことが考えられる。その際、図表やグラフの内容が、文章のどこに取り上げられているか、どの程度詳しく、あるいは簡潔に説明されているのかなど、文章と図表やグラフなどとの関係やその効果をとらえることができるように指導することが大切である。「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであり、実生活で生きて働く国語の能力として目的に応じて、適切に引用することができるようになることは極めて大切である。このため、かぎ(「 」)で括ることなど、引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて、児童が自分の思いや考えを書くことなども指導することが必要である。

算 数

- ・図形の学習で展開される作図や構成の指導において、構成する要素に着目し、図形のどのような約束や性質を用いているかを確認することは、図形の約束や性質についての理解を深める上で大切である。また、日常生活の事象から図形を見だし、図形の約束や性質と関連づけて考えることで、日常生活と図形の関連について関心を高めることが大切である。
- ・示された情報から基準量と比較量を特定するために、問題の状況を丁寧に読み解き、その関係を図や数直線などに表してとらえるようにすることが大切である。日常生活の中で、割合の考えを活用して、目的に応じて合理的に判断することは、算数が日常生活の様々な場面で用いられていることに気づく上でも大切である。

理 科

・器具の適切な操作方法を身につける際には、器具の操作の意味をとらえ、適切な扱い方を理解する指導を充実していくことが大切である。例えば、メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身につけるためには、器具の操作手順の理解だけでなく、操作の意味をとらえることが重要である。そのためには、スポイトの機能を確認した上で、水の平らな部分を読み取ることや、スポイトの先を水の中に入れずに水の量を調整することの意味について考えられるように指導することが大切である。

エ その他

- ・この調査の結果は、学力の一部である。
- ・この調査の詳細は、「平成27年度全国学力・学習状況調査 調査結果について」のホームページ（国立教育政策研究所ウェブサイト）により確認できる。

<http://www.nier.go.jp/15chousakekkahoukoku/index.html>

2 中学校3年生

ア 教科の状況

○状況を見るにあたって

- ・教科別・区分別に次の3段階で示す。

「たいへんよくできている」：正答率8割以上

「おおむねできている」：正答率5割以上8割未満

「努力を要する状況である」：正答率5割未満

- ・それぞれの教科で、よくできている内容（○：正答率7割以上）と、努力を要する内容（△：正答率5割未満）の一部を紹介する。

○教科別・区分別状況

| | 主として「知識」に関する問題 | 主として「活用」に関する問題 |
|--------|--|--|
| 国 語 | おおむねできている<正答率約7割5分> | おおむねできている<正答率約6割弱> |
| | ○文脈に即して漢字を正しく書く。 ○文脈に即して漢字を正しく読む。 ○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。 △単語の種別について理解している。 | ○効果的な資料を作成し、活用して話す。 ○表現の工夫について、自分の考えをもつ。 △複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。 |
| 数 学 | 主として「知識」に関する問題 | 主として「活用」に関する問題 |
| | おおむねできている<正答率約6割5分> | 努力を要する状況である<正答率約4割弱> |
| | ○比の意味を理解している。 ○関数の意味を理解している。 ○直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している。 △二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表せることを理解している。 | ○問題場面における考察の対象を明確にとらえることができる。 △図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる。 △資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 |

| | |
|----|---|
| | おおむねできている〈正答率約5割5分〉 |
| 理科 | <p>○塩化ナトリウムを化学式で表すことができる。</p> <p>○天気の記事から、風力を読み取ることができる。</p> <p>○グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取ることができる。</p> <p>△他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連づけて雲の成因を正しく説明することができる。</p> <p>△音の高さが「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる。</p> |

イ 学習・生活習慣等の状況

○状況を見るにあたって

- ・学習生活習慣等の状況調査を「基本的な生活習慣」「学校・家庭での居場所」「自己肯定感」「規範意識」の観点から分析した本市の全体傾向は、国や県と同様の傾向を示している。その中で全体傾向については、肯定的な回答の割合が8割以上見られる内容を紹介する。また「国との比較」では肯定的な回答の割合が高い項目（○：国平均より3ポイント以上高い）、低い項目（△：国平均より3ポイント以上低い）の代表的なものを紹介する。

| 春日井市全体の傾向 | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝食をとる、決まった時間に起床するなど、基本的な生活習慣を身につけている。 ・学校が楽しく、友達の話をよく聞いたり、約束を守ったりしている。 ・物事を最後まで協力して何かをやり遂げて、うれしいと感じたことがある。 ・規則を守って生活しており、「人の気持ちが分かる」「人の役に立ちたい」「いじめはいけない」と思っている。 ・家で学校の宿題をしている。 | |
| 国との比較 | |
| <p>○家の人と学校での出来事について話をする。</p> <p>○新聞を読んでいる。</p> <p>○学校の規則を守る。</p> <p>○家で学校の宿題をしている。</p> | <p>△学校や地域の図書館を利用する。</p> <p>△自分が住んでいる地域の行事に参加する。</p> <p>△地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる。</p> |

ウ 今後の取り組み

| 国 語 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりするためには、複数の本や資料から得た情報について、その真偽や適否を見極めるとともに、書かれている内容を自分と結びつけて考えるように指導する必要がある。また、学校図書館やインターネットなどを利用し、目的や意図に応じて主体的に情報を収集する学習活動を取り入れることも大切である。 |
| 数 学 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・2つの数量の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが何を表現しているかを理解できるようにするために、傾きの異なる複数のグラフを具体的な事象と関連づけて考察する活動を重視することが大切である。 ・様々な問題を解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。 |

理 科

- ・観察実験の結果を分析して解釈できるようにするためには、観察・実験の予想や仮説と比較したり、理科で学習した知識、技能と関連づけたりする視点を示すことが大切である。生徒が小学校で培った問題解決の能力を踏まえて、比較や分類をしたり、関係づけたりする視点をもって分析して解釈できるように、助言や支援することが大切である。
- ・自然の事物・現象から問題を見だし、適切に課題づくりができるようにするためには、提示する自然の事物・現象どうしや、あるいは提示する自然の事物・現象と学習して得た知識との間に違いがあるようにして、問題を見いださせることが大切である。

エ その他

- ・この調査の結果は、学力の一部である。
- ・この調査の詳細は、「平成27年度全国学力・学習状況調査 調査結果について」のホームページ（国立教育政策研究所ウェブサイト）により確認できる。

<http://www.nier.go.jp/15chousakekkahoukoku/index.html>